

Cバスについての26回目

(質問) 公共交通の充実に向けた実証実験とは具体的にどのようなものか。実証実験に関する調査費を補正予算に計上したとのことだが、その要求の内容はどのようなものか。

(答弁) 公共交通空白地域から1地区を選定し、その地区において公共交通についての意向調査を行い、それをもとに運行頻度、ダイヤ

などの計画概要案を作成し、あらためて同地区において需要調査を行う。その結果に基づき運行計画を策定し、鈴鹿市地域公共交通会議に提案し、審議の結果、承認されたときは運行開始の準備に入る。補正予算については、本市の公共交通の抱える課題の整理やあらゆる可能性について研究していくとともに、新たな交通システムを導入するに当たり、有識者で構成する会議の設置を考えており、その構成員に対する旅費、報酬等に関する予算となる。

その他の質問○横断歩道について

多様な学びの場について

(質問) 全国の中学生の8人に1人、約44万人が不登校傾向との調査結果がある。国では平成28年に「教育機会確保法」が成立し、学校復帰を前提とした考え方から、学校以外の「多様な学びの場」を認める方針に転換した。①本市の不登校の現状と対策、②目指す方向性、③校内へのフリースクール設置、④夜

間中学校への考えは。

(答弁) ①中学校の不登校生徒数は、全国や三重県では増加傾向だが、本市では不登校対策プロジェクト会議を立ち上げ、初期対応マニュアルの取り組みなどを実施した結果、公立中学校の不登校が3年連続で減少した。②学校復帰を促しつつ、社会的自立を目的として取り組む。③既存の校内外の適応指導教室を通じ、多様で柔軟な対応に努める。④文部科学省は各都道府県に1校の設置が目標としており、国や県の動向に注視する。

学校のトイレの改善について

(質問) 和式トイレを使えない子どもたちが増え、我慢して帰ってくる子や便秘になってしまう子もいる。9年前にトイレの集中改修工事をした亀山市に比べ本市は遅れている。本市のトイレの洋式化の現状認識と、今後の改善計画を尋ねる。また、避難所にもなる学校のトイレが和式では使える方が限定され、

災害時には致命的である。衛生的で誰もが使いやすいよう、乾式の床とし、早急に洋式トイレへの改修を求める。

(答弁) 平成28年度の調査では学校の洋式トイレは全国平均43.3%、三重県41.5%、亀山市69%、鈴鹿市は31.4%で、十分でないと認識している。子どもたちのいろいろなニーズを把握し、公共施設マネジメントと財政負担の平準化を考慮し、学校生活での利便性を図っていききたい。

その他の質問○公共施設のトイレについて

地域公共交通について

(質問) 市長は施政方針で「本市にふさわしい移動手段のあり方を検証」と表明し、記者会見では「各地域を細かく巡回するバスと市の根幹を走るバスの2つのモデルを組み合わせた公共交通」と強調したが、具体的なイメージを問う。また、今後検討していく実証運行は、①市民も市外の方も、誰もが利用できるもの、

②移動制約者は全市的に存在することを前提とすること、③有料という考え方に縛られないこととし、全市域に展開が可能なモデルを示すべきではないか。

(答弁) 既存の鉄道やバス路線を前提としつつも、こうした枠組みにとらわれることなく幅広い視点に立った公共交通をめざす。実証実験で新たな交通システムとして適した結果になれば、これをモデルに他の地域へと展開していくことを期待している。

その他の質問○市営住宅の管理について